

3501 住江織物

吉川 一三 (ヨシカワ イチゾウ)

住江織物株式会社社長

自動車内装事業を中心に海外市場での販売を強化

◆前年同期を上回る売上高・利益を達成

2011年5月期は、中期経営計画“Challenge 2012”の初年度として、基本方針のもと、諸施策に取り組んでいる。2011年5月期第2四半期の連結売上高は371億12百万円、営業利益は8億27百万円、営業利益率は2.2%、経常利益は10億71百万円となった。純利益については、投資有価証券の評価損1億10百万円が発生したため、4億26百万円となっている。すべての段階で前年同期を上回っており、特に売上高は約30億円の増加となった。なお、営業利益と比較して経常利益の増加幅が大きいのは、これは海外の持分法適用関連会社がすべて収益化したためである。前年同期は82百万円の投資損失だったが、当上期は31百万円の投資利益を計上することができた。期初計画との比較では、売上高が1億12百万円増、営業利益が27百万円増、経常利益が1億31百万円増となっている。

当社では、当上期よりセグメント区分を変更した。以下で比較した前年同期実績は、新たなセグメント区分に合わせて修正したものである。

セグメント別売上高では、インテリア事業が161億78百万円(前年同期比1.2%増)となっており、市場規模が前年の9割程度に縮小するなか、シェアを拡大することができた。自動車・車両内装事業は前年同期を大きく上回り、187億34百万円(同19.2%増)となった。機能資材事業は、ホットカーペット事業とタイルカーペットの輸出が中心となっており、売上高が21億24百万円(同10.8%減)となった。構成比は、インテリア44%(前年同期実績47%)、自動車・車両内装50%(同46%)、機能資材6%(同7%)である。

営業利益については、インテリア事業が2億81百万円(前年同期比19.7%減)となった。市場規模の縮小に伴って競争が激化していることが利益面に影響している。自動車・車両内装事業は10億8百万円(同8.4%増)となっており、利益率の高い高級車からコンパクトカーや軽四輪に需要が移行していることから、売上高と比較して増加率が低くなっている。

◆米国子会社が黒字転換へ

インテリア事業では、環境問題に積極的に取り組んでおり、リサイクルタイルカーペットをはじめ、環境にやさしい商品が高い評価を受けている。一般家庭向けカーペット・ラグマットについては、高いシェアを維持しているものの、消費マインドの冷え込みなどにより、売上高は前年同期を下回った。カーテンについては、医療、福祉、教育施設向けが好調となった。壁紙については、室内環境にやさしい「空気を洗う壁紙®」が2年連続で30%程度の伸びを達成している。

自動車・車両内装事業のうち、自動車内装分野については、国内のカーペット事業とシート表皮材事業はともに堅調に推移した。海外は、米国STAが第2四半期では、まだ約40百万円の赤字だが、期末には黒字に転換する見込みである。中国については、市場が拡大しているものの、当社子会社のSPMの売上高は減少した。これは利益確保を優先し、受注を絞ったためである。

車両内装分野では、鉄道、航空機、バスの内装材などを手掛けている。当上期の状況としては、鉄道車両向けの新規受注は堅調だったものの、鉄道各社が安全扉などの安全対策を優先的に進めていることから、リニューアル

ル需要は低調となった。バス向けは、排ガス規制の施行前の駆込み需要があったが、前年同期割れとなった。

機能資材事業では、中国で生産しているホットカーペットは、市場シェアが拡大したものの、残暑の影響で受注が減少した。タイルカーペットの輸出は増加した。

◆連結売上高の通期見通しは 740 億円(前期比 5.7%増)

連結貸借対照表については、総資産が前年同期の 686 億 7 百万円から 739 億 95 百万円と 53 億 88 百万円増加した。その主な要因は、現預金(前年同期比 14 億円増)、売上債権(同 18 億円増)、有形・無形固定資産(同 26 億円増)の増加である。売上債権の増加は売上高増に伴うもので、有形・無形固定資産の増加は、2009 年 12 月に帝人テクロスおよび尾張整染を連結子会社化したためである。

棚卸資産は、上記 2 社分が約 7 億円増加したが、グループ全体では管理を徹底したことが功を奏し、前年同期比で約 2 億円増にとどまり、97 億 71 百万円となった。負債合計は前年同期比で 22 億 76 百万円増加しており、仕入債務が約 8 億円増加した。純資産は前年同期比で 31 億円増加しており、利益剰余金が約 13 億円増加した。

連結売上高の通期見通しは 740 億円、営業利益は 18 億 50 百万円、経常利益は 21 億 50 百万円、当期純利益は 13 億 50 百万円を見込んでおり、期初予想を据え置いた。売上高の内訳として、インテリア事業は、市場は縮小しているが、環境商材などの積極展開で前期を上回る 330 億円を目指す。自動車・車両内装事業は、エコカー補助金が 9 月で終了したことから、下期は厳しい状況を予想されるが、373 億円を見込んでいる。

営業利益については、インテリア事業は 8 億 10 百万円、自動車・車両内装事業では 22 億 50 百万円を予想している。海外においては、米国 STA のシート表皮材事業の復調による収支改善が見込まれる。また、新たに連結子会社化したタイの T.C.H.スミノエと中国の蘇州住江小出汽車用品有限公司の業績も加算される。株主配当については、中間・期末ともに 2.50 円を予定している。

◆中期経営計画 “Challenge 2012”

3 年間の中期経営計画 “Challenge 2012” では、収益体質の強化、グローバル戦略を基本テーマとし、連結売上高で年 5%以上の成長、営業利益率 3.5%以上を掲げた。2012 年 5 月期には売上高 780 億円、営業利益 22 億円、経常利益 24 億 60 百万円、2013 年 5 月期には売上高 820 億円、営業利益 29 億円、経常利益 32 億円を達成したいと考えている。中長期的には、営業利益率で 5%以上、ROE で 7%以上、ROA で 5%以上を目指す。

各事業の基本方針として、インテリア事業については、市場の縮小が続き、競争が激化するなか、環境にやさしい商品など付加価値商品の販売を強化し、収益力を強化していく。付加価値商品の具体例としては、独自の消臭加工技術「トリプルフレッシュ®」を施したカーテンやラグマット、また、ペットボトルからリサイクルしたポリエステル長繊維「スミロン®」を使い、CO₂ 排出量を 19%削減したエコロジータイルカーペット「SG-300」、「SG-400」などが挙げられる。ライフサイクルアセスメント手法によって CO₂ を削減した商品の開発を進めているが、今後も拡充を図り、官公庁や環境への意識が高い企業から信頼を得ていきたいと考えている。

自動車・車両内装事業では、日系自動車メーカーの海外生産シフトに対応し、グループ会社およびアライアンスによるグローバル供給体制を構築して、海外売上高の拡大を図る。今期の同事業の売上高は 373 億円、海外比率は 23%(アジア 30 億円、北米 55 億円)を予想しているが、来期には売上高 393 億円のうち 30%(アジア 57 億円、北米 60 億円)、2013 年 5 月期には売上高 422 億円のうち 33%(アジア 70 億円、北米 70 億円)を見込んでいる。また、昨年、インドに新会社を立ち上げており、まだ先ではあるものの、次期中期経営計画ではインドでの事業展開が一気に拡大する見込みである。

インテリア事業では、ウォルト・ディズニー・ジャパンと契約し、今年 4 月 21 日から「ディズニーシリーズ」を発売する。ラグマットやカーテンなど、今までにない「大人の女性のためのディズニーシリーズ」を提供していく予定である。

(平成 23 年 1 月 21 日・東京)

(平成 23 年 1 月 25 日・大阪)